

令和 6 年 5 月 16 日現在

機関番号：32621

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2019～2023

課題番号：19K23121

研究課題名（和文）19世紀末アメリカ南部における人種隔離教育問題と黒人市民運動

研究課題名（英文）School Segregation and Black Activism in the Late Nineteenth-Century American South

研究代表者

山中 美潮（YAMANAKA, Mishio）

上智大学・外国語学部・助教

研究者番号：70844091

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、19世紀末アメリカ合衆国南部の黒人市民による公立学校の人種隔離反対運動を研究するものである。当初はルイジアナ州、ノースカロライナ州、サウスカロライナ州、ワシントンDCの南部各地方を比較考察する予定であったが、コロナ禍のため現地調査が叶わずルイジアナ州に焦点を絞り、教育に限らず幅広く人種隔離に関する研究を続けた。国際学会を含む66回の研究発表を行い、論文（査読無、刊行予定のものを含む）や書評などを発表した。現在は英語での単著刊行を目指している。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究が目指す、19世紀末アメリカ合衆国南部における黒人市民による公立学校の人種隔離運動反対運動は、従来人種別の公立学校を自明としてきた教育史に再考察を迫るものである。アメリカ合衆国では今世紀に至っても人種によって顕著な教育格差がある。人種・エスニシティ・ジェンダーなどによる教育機会の不平等は日本にとっても今後より真剣に取り組むべき課題である。本研究は当時最大の人種マイノリティであった黒人らによる隔離運動のルーツを探ることで、公教育の在り方を問い直すことに学術的、社会的意義がある。

研究成果の概要（英文）：This project examined Black Southerners' public school desegregation movement in the postbellum United States. Although this research initially aimed to study public schools in Louisiana, North Carolina, South Carolina, and Washington D.C., the COVID-19 pandemic prohibited the researcher from conducting adequate archival research. As a result, she primarily focused on Louisiana and paid attention to the desegregation of other public institutions within the state. During the funding period, the researcher participated in international and domestic conferences and published scholarly articles and book reviews. Currently, she is writing a book manuscript in English.

研究分野：歴史学

キーワード：アメリカ黒人史 アメリカ南部史 市民運動 教育 人種隔離 再建期 ルイジアナ 公立学校

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

本研究は、南北戦争(1861-1865年)及び奴隷制廃止(1865年)後のアメリカ合衆国(以下アメリカ)南部における、黒人市民による公立学校の人種隔離反対運動を検討するものであった。当初、研究代表者は、アメリカ史においてこの時期の人種隔離研究の対象から、学校がしばしば抜け落ちていることや、人種別の公立学校が自明とされていることに疑問を抱いていた。そこで本研究は南部の3州と1都市(ルイジアナ州、サウスカロライナ州、ノースカロライナ州、ワシントンD.C.)の事例を比較研究することで、黒人が奴隷制廃止直後から隔離反対を掲げてきたことを明らかにし、脱隔離の様相を検討する予定であった。

しかし、研究開始直後新型コロナウイルス感染症パンデミックが始まり、研究に重要であった現地での一次史料調査が数年間不可能となった。期間延長後も遅れを取り戻すことは困難と判断し、博士課程時から研究蓄積のあったルイジアナ州に焦点を絞り、同時に公立学校だけでなく他の公共機関(鉄道など)に射程を広げ研究を行った。

2. 研究の目的

本研究は19世紀黒人市民運動に新たな議論をもたらすことを目的とした。従来の人種隔離研究は制度の発展過程に注目するため、被差別者である黒人コミュニティ内の考えや行動は過小評価される傾向にあった。また19世紀末の黒人による反対運動は、隔離制度が1950年代頃まで合法であったため、一件失敗したと考えられる。しかし、南北戦争終結時から、黒人市民が反隔離という独自の人種平等理念を掲げたことは、20世紀の公民権運動など、草の根の市民運動の起源を再考察するきっかけとなる。更に、アメリカでは21世紀においても人種による教育機会の不均衡が問題となっている。人種による教育格差がどのように歴史的に構築されてきたのか、その問題に人種的マイノリティがどのようにアプローチしてきたのかを考察することは、表層だけに捉われず、歴史的な経緯を踏まえながら社会課題に取り組む一助となる。

3. 研究の方法

本研究は上述の通りパンデミックのため、ルイジアナ州の教育問題を中心に、鉄道などの公共機関の隔離問題を対象とした。まず、渡航が不可能であった機関にはオンライン・データベースを用い、新聞の一次史料を収集、また二次文献を精読し議論に必要な先行研究を確認した。2022年度以降はアメリカでの調査が可能になったため、ワシントンDCのナショナル・アーカイブズを中心に、連邦軍によるルイジアナ州占領記録及び、請願書、解放民局などの関連史料を検討した。また、ルイジアナ州ではニューオーリンズ市を中心に、学校や現地黒人指導者の記録などを中心に史料を収集した。こうした一次史料を連邦軍、黒人、そして現地の白人によって書かれたものに分け、各言説を突き合わせることで、学校運営に関する脱隔離運動の始まりや議論の構築過程を整理していった。ルイジアナ州の黒人層には、フランス語を母語とする有色のクレオール、アメリカ英語を母語としプロテスタントのアングロ・アメリカ系黒人が存在した。黒人指導者による言説を分析する際は、各人のコミュニティへの帰属意識を同時に検討し、公教育に関わる一枚岩ではない意見を分類し、再建期(1865年-77年)から19世紀末までの歴史的変遷を追った。

4. 研究成果

このような一次史料の分析では以下のことがわかった。まず南北戦争直後からルイジアナ州の黒人は、解放民専用学校の設立を支援すると同時に、黒人専用学校の設立を拒否し、人種統合された学校制度も目指していた。このような複雑な様相には、現地白人の多くが解放奴隷への教育すら拒否した厳しい現実があり、人種統合が単なる非現実的な理想ではなく、白人の妥協を引き出し、教育機会を確保するための急進案と見なされていたことがわかった。

第二に、ルイジアナ州にはフランス語話者である有色のクレオールと呼ばれた当地に固有の黒人層が存在したが、学校の脱隔離には彼らの環大西洋フランス語文化の影響がみられることが確認された。だが、同時に非クレオールの様々な指導者も脱隔離に賛同しており、この運動が非常に幅広い人材を動員した草の根運動であったことが導きだされた。このような背景が、ルイジアナ州の最大都市ニューオーリンズにおける公立学校の部分的脱隔離に繋がったことがわかった。

第三に、当初の予定にはなかったが、学校以外の鉄道などの他公共機関にも目を配ることで、様々な公共施設を巡る草の根運動の連関が可視化され、ルイジアナ州の黒人コミュニティが人種平等達成に関して、全ての施設へのアクセスが重要課題として共有していたことがわかった。

第四に、ルイジアナの草の根運動の継続性も理解することができた。特に前述のニューオーリンズ市では学校の再隔離が1877年以降進められ、草の根運動も教育の脱隔離を公に掲げることにはなくなった。だが、今回の調査結果により、19世紀末に至っても黒人コミュニティ内では公教育の脱隔離論が依然として存在していたことがわかった。

最後に、これらの研究成果を活かし、再建期の黒人市民運動と2020年大統領選挙で見られた言説の比較考察を行うなど、現代アメリカ社会を歴史的に分析するアウトリーチ活動に従事することができた。今後はこれらの成果や学術発表の結果をまとめ、英語で単著を刊行するべく準備を進める予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 Mishio Yamanaka	4. 巻 56
2. 論文標題 The Utilization of GIS in the Field of American History	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Historical Studies of the Western World	6. 最初と最後の頁 56-60
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.57271/hsw.2.0_56	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 山中美潮	4. 巻 1015
2. 論文標題 アメリカ再建期の市民運動：路面電車・人種・ジェンダー	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 89-97
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 和泉真澄、坂下史子、武井寛、南川文里、山中美潮	4. 巻 58
2. 論文標題 アメリカ大統領選挙とBlack Lives Matter：勝敗を分けた社会運動に迫る	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 同志社アメリカ研究	6. 最初と最後の頁 27-59
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14988/00028775	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 山中美潮	4. 巻 129-5
2. 論文標題 2019年の歴史学会 回顧と展望ー北アメリカ（前半）	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 史学雑誌	6. 最初と最後の頁 390-394
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山中美潮	4. 巻 211
2. 論文標題 新刊紹介 和泉真澄、坂下史子、土屋和代、三牧聖子、吉原真里著『私たちが声を上げるとき アメリカ力を変えた10の問い』	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 アメリカ学会会報	6. 最初と最後の頁 13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山中美潮	4. 巻 19
2. 論文標題 新刊紹介 ダイナ・レイミー・ベリー、カリ・ニコール・グロス著、兼子歩、坂下史子、土屋和代訳『アメリカ黒人女性史』	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 ジェンダー史学	6. 最初と最後の頁 116-117
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件(うち招待講演 3件/うち国際学会 3件)

1. 発表者名 Mishio Yamanaka
2. 発表標題 L' Ami des Noirs: Creoles of Color, French-Canadian Josephites, and their Educational Efforts in Early Twentieth-Century Louisiana
3. 学会等名 Southern Historical Association Annual Meeting (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山中美潮
2. 発表標題 アメリカ史とデジタル・マッピング: 人種隔離制度研究の事例から
3. 学会等名 日本アメリカ史学会第48回例会(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山中美潮
2. 発表標題 アメリカ再建期を考える：過去と現在を巡って
3. 学会等名 名古屋フルブライト・アソシエーション2020年度総会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山中美潮
2. 発表標題 「不正」が語られる時：アメリカ再建期と人種主義
3. 学会等名 同志社大学グローバル地域文化学部小規模講演会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山中美潮
2. 発表標題 Race and Freedom in the Post-Civil War American South: The Debate over Public Education
3. 学会等名 Transcultural Encounters 3: Debate! Language, Culture and Information in Interaction, Conference at the University of Oulu, Finland (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Mishio Yamanaka
2. 発表標題 The Fillmore Boys School and Creole Children of Color in Reconstruction New Orleans
3. 学会等名 Louisiana Historical Association Annual Meeting (国際学会)
4. 発表年 2024年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 遠藤泰生・小田悠生編著	4. 発行年 2023年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 416
3. 書名 はじめて学ぶ アメリカの歴史と文化	

〔産業財産権〕

〔その他〕

2024年度、日本アメリカ史学会機関誌『アメリカ史研究』第47号に「もう一つの『プレッシャー』：ロドルフ・ルシアン・デデューン、ダニエル・F・デデューンの19世紀反人種隔離闘争」と題した査読論文が掲載される予定である。

6. 研究組織			
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------